



## 英語教育の必要性

伊丹市立総合教育センター  
所長 太田 洋子

「小学校の英語って本当に必要なの？」英語の教科化が決まった時から言われていることです。

確かに、今の子どもたちの語彙力のなさに、「英語よりも国語を重視しないと」といった意見が多いことは事実です。母語である「国語」を大事にして、子どもたちに豊かな国語環境を与えていくことは大切なことです。おそらく、これまでの時代はそれだけでよかったのかもしれませんが、でも、今年入学した小学生が18歳になるのは、2030年です。その頃、世界はどうなっているのでしょうか？先日、文部科学省から、OECD教育スキル局の「教育とスキルの未来：Education 2030【仮約（案）】」が示されました。局長であるアト・リア・シュリヤー氏の序文に次のようなことが書かれています。



2018年に学校に入る子どもは、2030年には社会に出ていくことになる。現時点では存在していない仕事に就いたり、開発されていない技術を使ったり、現時点では想定されていない課題を解決することなどについて、学校は子どもたちに準備しておくようにすることができる。そうすることは、子どもたちが機会をつかみ解決策を見つけるために果たすべき、私たちの共同責任となるだろう。

そうした、不確実な中を目的に向かって進んでくためには、生徒は好奇心や想像性、強靭さ、自己調整といった力をつけるとともに、他者のアイデンティティや見方、価値観を尊重したり、その価値を認めることが求められる。

過去には、日本の教育の方向性を日本だけの考え方で決めていける時代もありました。しかし、未来の子どもたちを育てるためのコンピテンシーの枠組みやカリキュラムに関する議論が日本を含むOECD加盟国のネットワークで行われるような時代になったのです。

新学習指導要領では、小学校において英語が教科となり、プログラミング教育が必修化されます。今を懸命に生きている私たち大人の頭では、「何で必要なの？」と思うかもしれませんが、でも、私たちは10年後、20年後、30年後の未来に生きる人材を育てておくことを忘れてはいけません。世界の人とネットワークを組んで、物事を進めたり課題を解決するために英語は欠かせなくなるでしょう。AIが席卷し、ビッグデータが活用されるデジタル情報化の時代において、プログラムは組めなくても、その意味を理解し、データを使いこなす能力は必要不可欠になってくるのかもしれませんが、私たちは、「今の学習は目の前の子どもとたちが未来によりよく生きていく学びに繋がっているのか？」を考え続けなければいけないのです。そのためにも、学校という世界だけで物事を捉えるのではなく、私たち自身が学校の外にも目を向け、創造的でチャレンジ精神のある大人であり続けたいと思います。

# 外国語活動のすすめ

## 外国語

### LESSON 1 デジタル教材を活用しましょう



文部科学省から、学校に配付されているデジタル教材(「We Can!」「Let's Try!」)には、収録されている音声や画像データを活用できる機能があります。  
そこから、必要なデータを取り出し、オリジナル教材を作成してみましょう!!



- ① デジタル教材の「どうぐ」ボタンをクリックします。
- ② 音声や画像ファイルが格納されています。
- ③ 例えば、「絵辞書」を作成すれば、オリジナルのフラッシュカードが作れます。

新学習指導要領の移行期間である平成30年(2018年)度、外国語活動・外国語教育にお悩みの先生方も多いと思います。  
今月号では、どのようにすすめていけばよいのかを特集します。

## 何が出来るようになるか

中学年で外国語活動を導入し、聞く・話すことを中心とした活動で**外国語に慣れ親しみ**、外国語に対する**動機付けを高めた**上で**高学年へとつなげる**

### 外国語活動

○ 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### 外国語科

○ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学びに向かう力・人間性

思考力、判断力、表現力等

### LESSON 2 指導案を見てください



伊丹市教育支援ネットワークデータ共有サイト「Data Web」にある、小学校英語の部屋には、伊丹市小学校外国語活動研究グループが作成した指導案がアップロードされています。  
また、文部科学省の小学校外国語・外国語活動教材ダウンロードサイトにも、学習指導案例がアップロードされています。  
(<http://mext-next-kyozai.net/>)

※ID・パスワードは各学校に配布されています。

是非活用してみましょう!!

### LESSON 3 研修に参加しましょう

※詳しくは、時期が近づきましたら、学校あて文書でお知らせします。

#### 第2回 英語教育実践講座

日時: 12月6日(木) 6校時

場所: 伊丹小学校

内容: 6年生 公開授業

授業者: HRT 竹安 雄一 教諭

JTE 藤井 真弓 英語指導補助員

講師・指導助言: 大阪樟蔭女子大学

菅 正隆 教授



#### 第3回 英語教育実践講座

日時: 1月17日 15:30~16:45

場所: スワンホール(予定)

内容: 講演会

講師: 文部科学省教科調査官

直山 木綿子 氏



### 知識及び技能

#### 外国語活動

- ① 言語や文化についての体験的な理解
- ② 日本語との音声の違い等に対する気付き
- ③ 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

#### 外国語科

- ① 日本語と外国語との間の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きについての違いに対する気付きと理解
- ② 読むこと・書くことへの慣れ親しみ

#### 外国語活動

- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う

#### 外国語科

- ① コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり話したりする
- ② 音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を、推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする
- ③ 自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う

# 平成30年伊丹市議会（9月定例会）における質問について

平成30年伊丹市議会（9月定例会）における、「小学校英語の早期化・教科化に向けての取組状況について」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋して紹介します。

## 【質問趣旨】

小学校英語の早期化・教科化に向けて、教員研修はどのように行っているのか。



## 【答弁内容抜粋】（学校教育部長答弁）

英語の指導を適切に行っていくための取組として、外国語の指導力と英語力に関する**教員の研修が重要**と考えます。

外国語の指導力向上を目指した研修としましては、国主催の「英語教育推進リーダー中央研修」や県主催の「大学と連携した英語指導力向上事業」があり、本市からも教員が参加し、**市内教員に伝達講習**を行っております。市教委としても、各校から代表者が集まる**外国語活動担当者会での情報共有や研修会、公開授業研究会、小学校外国語活動実践講座**等を実施しております。

また、英語力に関するものとしましては、市教委主催のものとして、**英語実技研修講座**や**外国人英語指導助手（ALT）による出張研修**等を実施しております。特に、今年度夏に実施しました外国人英語指導助手（ALT）による出張研修は、実施日や内容等、各校の英語研修に関する希望を聞き、その内容をふまえた上で、ALTを派遣して行いました。各校の実情に合わせた研修を希望に合わせて実施することにより、教員の移動に要する時間の短縮と必要な内容に的を絞って実施することができました。

その他にも、平成29年度から兵庫教育大学と連携し、昨年度は指導に必要な英語力を磨く、「英語ブラッシュアップ研修」、今年度は**デジタル教材の効果的な活用**やALTとの連携方法、「書くこと」の指導をふまえた**授業づくり**等、これまでの研修アンケートから、教員がより必要性を感じている事柄を把握し、「**小学校英語3ステップ研修**」として実施しております。

今後も、現状を把握し、情報収集に努め、教員のニーズと教科化に向けて必要な事柄を調査研究しながら、研修をすすめてまいりたいと考えております。

発行 伊丹市立総合教育センター

月～金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482  
土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始 総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>